

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
次世代海洋資源調査技術推進委員会(第6回)
議事要旨

1. 日 時：平成27年10月5日(月) 15:00-17:00

2. 場 所：中央合同庁舎4号館4階 共用第4特別会議室

3. 出席者：(敬称略)

(総合科学技術・イノベーション会議)

	久間 和生	常勤議員、SIP ガバニングボード議長
(議長)	浦辺 徹郎	プログラムディレクター(PD)
(SubPD)	辻本 崇史	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事
	堀田 平	国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事
(有識者)	竹内 俱佳	電気通信大学 名誉教授
	高木 健	東京大学 新領域創成科学研究科 教授
	林 謙一郎	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 地球進化科学専攻 教授
(関係省庁)	藤田 雅之	総合海洋政策本部事務局 参事官
	清浦 隆	文部科学省海洋地球課 課長
	田守 光洋	経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部鉱物資源課課長補佐(代理出席)
	山内 智生	総務省情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課 課長
	河野 順	国土交通省海事局海洋・環境政策課 技術企画室 室長
	東島 義郎	国土交通省港湾局海洋・環境課海洋利用開発室 室長(代理出席)
	寺西 制	環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室 (代理出席)
(実施機関)	木川 栄一	国立研究開発法人海洋研究開発機構 海底資源研究開発センター 研究開発センター長
	磯崎 芳男	国立研究開発法人海洋研究開発機構 海洋工学センター セン ター長
	山崎 徹	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門地殻岩 石研究グループ 主任研究員(代理出席)
	矢野 博之	国立研究開発法人情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研 究所 所長
	田村 兼吉	国立研究開発法人海上技術安全研究所 研究統括主幹
	山本 浩	国立研究開発法人港湾空港技術研究所 理事
	河地 正伸	国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センタ ー 生物資源保存研究推進室 室長

(オブザーバー)

文部科学省、経済産業省、総務省、国土交通省・海事局、国土交通省・港湾局、環境省、内閣官房総合海洋政策本部事務局、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人海上技術安全研究所、国立研究開発法人港湾空港技術研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、(一社)海

4. 議事

(1)「既存事業の充実に向けた取り組み」について

①公募結果について(管理法人)

②研究開発計画紹介

- ・潜頭性熱水鉱床の規模・品位探査に資する物理化学・生物観測技術の創出(高知大)
- ・海洋資源開発による新海洋産業創出に向けた海洋の総合的な管理に関する研究(東京海洋大)

(2)調査検討ワーキンググループ報告【非公開】

①主な研究開発進捗報告

- ・実施項目2 ROVによる高効率海中作業システムの開発—音響ビデオカメラ高度化等(港空研)
- ・実施項目2 AUV複数機運用手法等の技術開発—洋上中継器開発の進捗状況(JAMSTEC)

②その他の研究開発進捗概要

(3)JOGMECとの連携について【非公開】

- ・JOGMECにおける海底熱水鉱床の開発に向けた取組状況

(4)管理法人知財委員会報告【非公開】

- ・目標ポートフォリオ検討状況紹介

(5)その他【非公開】

5. 配布資料

資料1-1 「既存事業の充実に向けた取り組み」に関する公募の結果

資料1-2 潜頭性熱水鉱床の規模・品位探査に資する物理化学・生物観測技術の創出

資料1-3 海洋資源開発による新海洋産業創出に向けた海洋の総合的な管理に関する研究

資料2-1 ROVによる高効率海中作業システムの開発—音響ビデオカメラ高度化等【非公開】

資料2-2 AUV複数運用手法等の技術開発—洋上中継器開発の進捗状況【非公開】

資料2-3 研究開発進捗概要—工程表【非公開】

資料3-1 JOGMECとの連携について【非公開】

資料3-2 JOGMECにおける海底熱水鉱床の開発に向けた取組状況【非公開】

資料4-1 管理法人知財委員会報告【非公開】

資料5-1 研究開発計画(修正案)【非公開】

資料5-2 年間スケジュール【非公開】

参考資料1 SIP次世代海洋資源調査技術推進委員会 構成員名簿

参考資料2 SIP次世代海洋資源調査技術推進委員会(第5回) 議事要旨

参考資料3 各実施項目説明概要および工程表【非公開】

6. 議事要旨

議事に先立ち、久間議員から挨拶があった。

- ・今年度から1課題増え、合計11課題になるとともに、各課題ともに成果が出始めている。
- ・次世代海洋資源調査技術は、伊平屋北海丘での巨大熱水だまりの確認という、SIPでの最初の成果を出してくれた。今後は、海洋調査産業の創出および国際標準化の2つの出口戦略に即した大き

な成果を出してほしい。

・今回は出口の1つである JOGMEC の取り組みについても聞けるとのことで楽しみである。

(1)「既存事業の充実に向けた取り組み」について

①公募結果について(管理法人)

資料1-1に基づき、JAMSTEC 佐々木オブザーバーから説明があった。

② 研究開発計画紹介

・潜頭性熱水鉱床の規模・品位探査に資する物理化学・生物観測技術の創出(高知大)

資料1-2に基づき、高知大学岡村オブザーバーから説明があった。

・海洋資源開発による新海洋産業創出に向けた海洋の総合的な管理に関する研究(東京海洋大)

資料1-3に基づき、東京海洋大学川邊オブザーバーから説明があった。

おわりに、浦辺 PD から、その他の採択課題については調査検討ワーキンググループで説明を受けた旨説明があった。計画の細部については、PD 一任としてほしいと提案があり、了承された。

(2) 調査検討ワーキンググループ報告

①主な研究開発進捗報告

・実施項目2 ROVによる高効率海中作業システムの開発—音響ビデオカメラ高度化等(港空研)

資料2-1に基づき、港湾空港技術研究所 松本オブザーバーから説明があった。

・実施項目2 AUV複数機運用手法等の技術開発—洋上中継器開発の進捗状況(JAMSTEC)

資料2-2に基づき、JAMSTEC 吉田オブザーバーから説明があった。

②その他の研究開発進捗概要

資料2-3に基づき、事務局から説明があった。

(3) JOGMEC との連携について

資料3-1に基づき、浦辺 PD から説明があった。続いて、資料3-2に基づき、JOGMEC 廣川審議役から説明があった。

(4) 管理法人知財委員会報告

資料4-1に基づき、JAMSTEC 下田代オブザーバーから説明があった。

(5) その他

資料5-1および資料5-2に基づき、事務局から説明があった。

最後に、久間議員の講評により、閉会した。

以上